

『Lines of Sight ～それぞれのアジアへの視線～』

● PFWトップページ ● NPIトップページ

Title:『Slow letter』



君島 佳弘  
1987年栃木県生まれ。FW帰国からもう2年たちます。旅に出たい。ほんと笑

● 最近のエントリー

- トラ犬 (2009.04.18)

● アーカイブ

- 2009年12月
- 2009年09月
- 2009年04月
- 2009年03月
- 2008年09月
- 2008年07月
- 2008年06月
- 2008年05月
- 2008年04月
- 2008年03月
- 2008年02月
- 2008年01月
- 2007年12月
- 2007年11月
- 2007年10月
- 2007年09月
- 2007年08月
- 2007年07月
- 2007年06月
- 2007年05月
- 2007年04月
- 2007年03月

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校  
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

**OLYMPUS**

Your Vision, Our Future

RSS 2.0

09.04.18  
トラ犬

[Tweet](#)

[Slow letter > 2009年04月 アーカイブ](#)

[Check](#)

「なんてこった・・・」

見つからなかった。

ブログや文章用の記録として撮っておいた、  
北インドの写真データがどこかへ消えてしまったのだ。

そう、たった一日のどうでもいい記録を残して。

—それがトランプの話だ。

▶

タール砂漠のとある村へ滞在していた去年の夏である。  
ある朝、砂と汗をシャワーで落とし  
—暑いから、と外へ出してもらった簡易の一ベッドへ戻ると、  
いつの間にか大きな犬にベッドを占領されていた。



「不意うち」というやつだ。  
それがトランプとの出会いだった。  
一見怖く感じたが、口を閉じたままの口元(イヌ科?)の動きに惹かれ、「大丈夫かも」と、隣に近づいた。  
そして抱いてみると、意外なほどなつっこく、  
体を返しながらじゃってきた。



明らかにトランプよりかは可愛気があった。

そして何やら眠そうにしていたので、





(今思うと、確信的な面白半分だったけれど)  
とりあえず布団を掛けてみた。



．．．そして、落ちも無く、  
話は本当にどうでも良くなるのだ。

サンスカルの寺院に泊まり、何百杯のバターティを飲み、  
三回お腹を壊し三回熱を出し、  
金をばられそうになり、トイレを壊し、  
斧を使った山羊の屠殺に気が遠きそうになり、  
音楽と錆に包まれながらラージャスタンを彷徨い  
「人生は真っすぐじゃないさ」と納得し合った  
昨年の夏は、良い経験に、なってくれなきゃ困る。

ありがとうトラ犬。



▶ エンジンは次第にかかりつつある。

カテゴリ：

post by 君島 佳弘 | 日時: 2009.04.18 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) |  [トラックバック \(0\)](#)

